

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2017年2月1日発行(毎月一回発行) 第709号

ISSN 0286-7001

# 本の ひろば

## 出会い・本・人

聖書・ヴィトゲンシュタイン・ルター

高井保雄

レギーネ・シントラー 著／深谷 潤 訳

希望の教育へ 大澤秀夫

小田部進一 著

ルターから今を考える 神田健次

## エッセイ

A・グリーン著『従順という心の病い』

を翻訳して 村椿嘉信

川村信三 著

キリシタン大名

高山右近とその時代 片岡瑠美子

## 本・批評と紹介

アルノ・グリーン 著／村椿嘉信 訳

従順という心の病い 富田正樹

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内

船本弘毅 著

聖書に聴く「生と死」 関田寛雄

ティモシ・ラドクリフ 著

伊達民和+芦屋聖マルコ教会翻訳の会 訳

なぜクリスチャンになるの 岩城 聡

近藤勝彦 著

キリスト教弁証学 井ノ川 勝

ミハエル・デリッター 著

島田宗洋、ヴォルフガング・R・アーデ 訳

わたしたちはどんな死に方を

したいのか? 窪寺俊之



2 FEBRUARY  
2017

この一冊で  
キリスト教がわかる!



**オックスフォードキリスト教辞典**  
E・A・リヴィングストン編 木寺廉太訳  
標準的でエキュメニカルなキリスト教総合辞典。信仰・異文化理解・宗教間対話に不可欠の書。聖書・歴史・神学から、美術・文学・音楽に至るまで約6400項目を収録。  
●A5判函入・1018頁・本体12,000円



一緒に読みたい本  
T:カウフマン著 宮谷尚実訳  
**ルター** 異端から改革者へ  
●四六判・190頁・本体1,600円

説教者、教授、著作家として大いに語り、書き、時代の誰よりも大きな影響を与えたルターは、同時に教会史上最大の「異端」でもあった。歴史上の一人物としての実像に迫る。



W:カスパリー著 高柳俊一訳  
エキュメニズムの視点から  
●B6判・104頁・本体1,400円

第二バチカン公会議後のカトリック教会でエキュメニズムを牽引してきたカスパリー枢機卿が、ルターを再解釈し、彼が投げた問いの今日的意義と本来の意図、多様性における一致への希望を語る。

# マルティン・ルター

キリスト教  
教父著作集2/1 **エイレナイオス1**  
異端反駁1

エイレナイオス著 大貫隆訳

ギリシア教父エイレナイオスの主著である、グノーシス主義反駁の書の第1巻。真理の認識を有すると主張するプロトレマイオス派、ヴァレンティノス派らの教説を報告。  
●A5判函入・194頁・本体3,400円

# 松居直と絵本づくり

藤本朝巳

●四六判・240頁・本体1,800円



月刊絵本「こどもものとも」を創刊し、「ぐりとぐら」「うさこちゃん」ほか多くの名作を世に送り出してきた、福音館書店の名編集者・松居直。その絵本づくりの奥義を児童文学研究者が紹介する。





## 出会う・本・人

### 聖書・ヴィトゲンシュタイン・ルター——高井保雄

私の本棚の隅に一冊の聖書がある。ボロボロの革表紙の金縁の文語訳聖書だ。少年の頃、祖母からもらった。所々赤線が引かれている箇所を読むと、例えばマタイ伝4・4には「人の生くるはパンのみによるにあらず、神の口より出づる凡ての言による。」とある。聖書の内容は理解が困難でお手上げだったが、子ども心にも荘厳な雰囲気を感じられて、私はすっかり格言好きになった。

大学生になり、ヴィトゲンシュタインの『論理哲学論考』（通称『論考』）を読み、アフォリズムのような簡潔な命題を連ねて、「世界」「生」「言語」「私」「神」「真理」「死」等について、それらを論理的階梯に従って位置づけつつ語り尽くすことが出来るということに衝撃を受け、熱狂的に読み進んだ。

大学では、法学部に属していたのだが、いざ実定法の条文の世界に飛び込んでみると、殺伐とした風景がどこまでも続くばかりで、ほうほうの体でその場から離脱してしまった。そればかりか、かつての『論考』の、時に神秘的な印象さえ与える謎めいた世界からも、いつの間にかすっかり遠のいてしまった自分があった。

そんな時、教会のキリスト教入門講座でルターの『小教理問答』に出会った。それは十戒の学びからスタートするのだが、

律法とか罪とか罰とかの概念は、ほとんど法律用語と同じだったのでも面白かった。だが、「贖罪」や「罪の赦し」が実定法のように自己責任に基づくのではなく、キリストによる、というあたりから、この世界をもっと知りたいと思ひ、神学校に進んだ。

ルターの『小教理問答』は、『論考』によく似ている所がある。やはり簡潔な文体で、「世界」「神」「私」「言語」「生と死」「真理」等について述べられている。その内容は、時に謎めいていて、飛躍もあり、難解さもあるのだが、ドイツ語本文自体はもと子ども向けに書かれているせいも、言葉は易しく、音読してみると、リズムがあり、詩を朗読するような趣きさえある。自ら讃美歌の作詞作曲もしたルターの著作ならではのことなのかも知れない。

ルターは、あまたある自身の著作の中で、『奴隸意志論』と『教理問答』こそ自己の真正の書だと言っている。そう言い切るほどの何かが、この簡単な教理問答には隠されている。それは、一体何なのか。その秘密を『論考』のような端然明晰な論証で説き明かしてみたいというのが、私のささやかな願いなのである。

（たかい・やすお 日本福音ルーテル羽村教会牧師・ルーテル学院大学ルター研究所所員）

A・グリーン著

『従順という心の病い』を翻訳して

村椿嘉信

スイスの心理学者アルノ・グリーン（一九二二—二〇一五年）の『従順という心の病い』（原題『従順に抗して』二〇一四年）を翻訳し、グリーン自身の『私は戦争のない世界を望む』と同じ出版社から出版した。彼は、その後、『テロリズムに抗して』、『冷たい理性に抗して』を書いている。

グリーン晩年の一連の書物を読むと、彼が何を問題にしていたかがわかる。彼は、世界中に暴力やテロリズムが蔓延していることを憂慮し、その原因が欧米の帝国主義的な国家の中にあること、つまり私たちの文化の根底にある「客観的理性への崇拜」や「普遍的合理性という価値観」にあることを指摘した。私たち人間は、「理性的な熟慮」や「合理的な判断」に基づいて、もっとも野蛮な「戦争」やさまざまな私たちの「暴力」を起すのである。彼はその問題性を、みずからの戦争体験（IIナチズム体験）や、精神病理学者としての臨床の知見から、心理学的に説明しようとした。

私は、沖繩で、まわりにいる人たちとともに歩みながら、私たちが生きている時代の問題や平和の問題、また人間の心

の中のさまざまな問題に直面させられ、神学だけでなく、哲学、社会学、歴史学、政治（経済）学、心理学……などを学び続けてきた。その中で、従来の心理学や精神病理学関連の書物は、どちらかという分析的で狭い分野を深めるには役立つが、今日における「個」としての人間の問題と、過去、歴史、社会、文化の問題を総合的に捕らえるには実際的ではないと思うようになった。グリーンを読んで、現実の問題に向き合って対話できる「心理学」とやっと出会ったと思わされた。

グリーンは、聖書の言葉、主イエスについての教え、あるいは主イエス自身の教えを、どのようにとらえ、時代の中で混迷する人たちに伝えようとしているのか。戦争がテロというかたちでますます複雑化し、人間の生命の重さが軽んじられ、「他者」が信じられなくなる現代世界の中で、改めて神を「信仰」することがどういうことなのか、主イエスの「隣人愛」とはどのようなものかを、問い直す必要があるのではない。

キリスト教の「信仰」は、神への「依存」や、主イエスへの「服従」であると言われる。しかしその場合の「従順」とは、従順であるという「人間的な姿勢や生き方」の問題なのだろうか。神に「従順」であるということは、「権威者」や「何らかの組織」あるいはその「決まりごと」に従順であるということとは、次元を異にする問題ではない。

宗教改革者ルターは、『キリスト者の自由』という小冊子の中で、「キリスト者は、すべてのものに仕える僕（しもべ）であって、誰にでも服する」と主張したが、その場合の「服する」ということは、どういうことか。ルターは、この命題の前に、もう一つ「キリスト者は、すべての上に立つ自由な主人であって、だれにも服しない」という命題を対置したが、私たちはそのような自由に生きているだろうか。むしろグリーンのように、「私たちはすでに（この世の支配者や、支配的な価値観に）従順になっている」のではない。

A・グリーン 村椿嘉信訳 私たちはすでに従順になっている

従順という心の病い

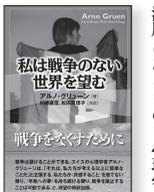
話題沸騰中!



従順の問題点！ 従順であるとは、「他者の意志への屈服」である。この場合、他者は、被抑圧者に対して、「権力」を行使している。この抑圧は、乳児期に、つまり言語や思考を身につける以前に始まる。……最終的に、自分で考え、自分で判断することを不可能にする。現代に巣くう従順にメスを入れる話題作！ ●八〇〇円＋税

私は戦争のない世界を望む

村椿嘉信・松田眞理子共訳



なぜ戦争が起こるのか「どうすれば戦争を避けることができるか」戦争や暴力を容認する文化や人間の深層にあるものを心理学的に分析し、「なぜ戦争を企てる政治家が現れるのか」、また「なぜ自分は自由で民主的だと思ったか」一般市民が戦争を企てる野心家を指示してしまうのか」について説明し、戦争をやめるためにはどうすればいいかを考えている本です。 ●四六五円判・一九六頁・九〇〇円＋税

株式会社ヨobel YOBEL Inc. お問合せは info@yobel.co.jp 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858 \*自費出版の専門出版社\*資料・呈

日本のキリスト教は、一方において、神に「従順」になるように教え、他方において、教会（の伝統や制度、信仰理解）に、さらには家庭に、社会に、国家に「従順」になることを要求してきたのではない。キリスト者は、日本という社会の中で、社会が要求する奉仕活動（ボランティア活動、社会福祉）を行うことがあっても、この世の秩序や価値観に「従順」であり続けているのではない。その結果、主イエスの実践や教えから大きく逸脱し、みずからの実存的ならびに歴史的な罪責を覆い隠し、自分の中にある「神から一人ひとりに与えられた独自のもの」を拒否し、自分とは違う「異質なもの」に攻撃的になっているのではない。私たちがコピーとして生きることをやめ、愛をもって他者に出会い、ともに助け合っ

（むらつばき・よしのぶのわん日曜集會、日本基督教団牧師）

なぜこれほどに民は従順なのか？

アルノ・グリューン著  
村椿嘉信訳

## 従順という心の病い 私たちはすでに従順になっている

なぜ自由競争において敗北させられている貧困者ほど、貧困者を抑圧するような新自由主義的な政策を掲げる政治家に票を入れるのか。

なぜ重税と福祉の貧困に苦しむ当事者であるはずの有権者が、税を引き上げつつ福祉予算をカットする政権を維持させ、文句も言わずに唯々諾々と従うのか。

なぜ最も生活が不安定で、自らが戦場に送られる可能性が最も高い若者が、右翼的で全体主義的であり軍備を拡大しようとする政権を喜んで支持するのか。

なぜ極右的な人々がヘイト・クライムと密接に結びついているのか。また、なぜ不道徳で汚辱に満ちた政治家たちが殊更に道徳教育を推進しようとするのか。

「役に立たない人間は殺されるべきだ」というような人間性の欠如した考え方が賞賛をもって受け入れられ、その考えに基づいた凶悪犯罪が、なぜ多くの支持者を得てしまうのか。

このような現実を「恐ろしい」、しかし「わけがわからない」と不可思議に思う人は私だけではなかったはずだ。



## 富田正樹

この誰もがどう考えても不可解な日本人の行動を理解するのに有益な論考がこの書物です。

著者によれば、この「従順」という心の病いは、幼少期に育ての親から与えられたものが根源にあります。そしてその背景には父権主義が存在します。

従順を親から強要された子どもは、自分の本来の感情や要求を抑圧し、親の期待する自分を自分自身だと思い込み、やがて親を（特に支配的な父親を）自分自身と同一化するようになります。そして、抑圧し無視した自分自身を憎むべきものとして否定しようとしています。この子どもはやがて大人になり、この嫌悪を他者に投影し、自由に生きようとする他者を貶め、見下すことができた時に、自律した生き方ができると錯覚するようになります。

この心理の仕組みは、例えば虐待を受けながら育った子どもが、なぜ同じような虐待をする人と親密な関係になったりするのかわからない。あるいは自分も虐待を行う大人になってしまうのかという、暴力の連鎖とも大きな関連があると思われる。

暴力の連鎖は親子間だけで起こるのではなく、政治的な権力と市民の間でも繰り返されます。これはヒトラー政権下で明らかに目的化して行われたことであり、日本の現政権においても実践されつつあることです。

国民の貧困を激しくさせ、福祉を悪化させ、徴兵への恐怖を与え、警察によって虐待的に取り扱い、結果として国民の家庭生活を虐待に満ちたものに追い込めば、ますます虐待に従順になる次世代の国民を再生産することができるでしょう。

著者はさらに、「従順は、人間を権威的な構造に結びつけ、心の奥深くに根を張って、「倫理観や共感を無効にする行動」を引き起こす固定剤である。「中略」従順な人間こそが、観念的になり、自身自身の行動に責任を感じなくなる。だからこそ「中略」歴史の中で、常に「従順」の名において残酷な犯罪が行われてきた」（九二頁）と宣告します。

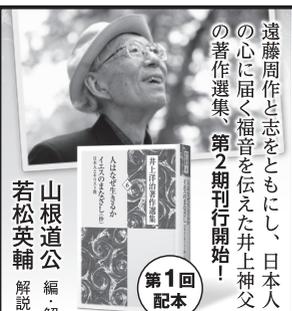
私は教育現場で普段仕事をしていますが、近年「従順で無

責任」な子どもが増えているという感触を得ています。命令や指示を与えれば従順に動きますが、責任は指示を出した教師にあると思っており、命令や指示がなければ動かないのです。常に命令や指示を待っており、命令や指示を出さない教師は無責任で無能だと判断するのです。

恐ろしい世の中が既に始まっています。この子どもたちは自分たちが権力によって不当な支配を受けた時、それに極めて従順に従い、また命令が明確であればあるほど喜んで従うでしょう。自分で考え、自分の意見を言い、自分の判断で行動するというのができなくなってしまった子どもたちは、将来的に国家の食い物にされてしまいます。しかも自ら進んで食い物にされに行くのです。

この危うい状況を改めて認識し、分析する上で、この本は必読の書であると思います。

（とみた まさき 同志社香里中学校・高等学校聖書科主任  
（四六変型判・一二〇頁・本体八〇〇円＋税・ヨベル）



遠藤周作と志をとにし、日本人の心に届く福音を伝えた井上神父の著作選集、第2期刊行開始！

第2期 全5巻

第1回 記本

## 井上洋治著作選集

人はなぜ生きるか  
イエスのまなざし

日本人とキリスト教史  
信じることの喜びと安らぎをわかりやすく語る、井上神父初の講演録『人はなぜ生きるか』全編と、思索のルーツを示す『イエスのまなざし』よりエッセイ5本を収録。A5判 上製・250頁・2700円

従来の通説を鋭く問う  
鋭い新約学者による刺激的論考

## 福音書記者 マタイの正体

その執筆意図と自己理解  
澤村雅史 広島女学院大学チャプレン  
マタイはなぜ福音書を書いたのか。「すべての民」(28章)への宣教を促進するためといった従来の通説を問直し、新しい視点からその執筆意図に迫る。  
A5判 上製・194頁・2,160円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
http://bp-uccj.jp

水平の歩みを支える言葉  
船本弘毅著

## 聖書に聴く「生と死」



関田寛雄

本書は、著者によって続けられている教文館における聖書講座から生まれた講話集である。それは七年前から続けられており、その最初の結実が『水平から垂直へ』と題して既に出版されており、本書はその続篇である。通読しての印象を前著との絡みで言えば、「垂直から水平へ」ということになるうか。

「創造された生」の中で語られる被造物への祝福された神の「良し」について著者は言う、「したがってこの神の良しは、根源的な存在の肯定と評価があるのです。『良し』というのは、ただ現状を肯定することではありません。もしこの根源的な良しが奪われ、無視される世界の現実が現れる時には、人は全体的、根源的な良しの回復のために生き戦わねばならないのではないのでしょうか。十字架と復活の主が今もわたしたちと共に生きたもう、この福音に固く立って、福音に聞き従って生きているのが、わたしたちの生でなければならないのです」(三二頁)と。

著者がボンヘッファー研究の専門家のひとりである事は周

知の事であるが、彼がボンヘッファーに引きつけられた理由は、その獄中書簡『抵抗と信従』との出会いによってである。「私は一体何者なのか、この孤独な問いが、私をあざ笑う。私は何者であるにせよ、ああ神よ、あなたは私を知り給う、私はあなたのものである」(六二頁)。第二次大戦中に劇的な抵抗運動の中で殉教した彼は「同時に極めて信仰的であり、祈りの人である」(六三頁)。

著者はまた様々な著作からの引用によって人間の実存状況への深い洞察を展開する。その著者たちは夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、ドストエフスキー、フランクフル、ブーバー、トルストイ、マザー・テレサなどと共に留學中に出会った方々の生き様を通して、人間の生と死をめぐる苦難、孤独、絶望の諸状況について突っ込んだ分析と解釈を述べている。特にロマ書七章についての「内なる罪」ではアイヒマンの例をとり上げつつ、パウロの内的苦悩について語られる所は極めて説得的で共感を促される。「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んで

いることをするからです」。こういう所ではもはや「どうすれば救われるのですか」という問いそのものが破碎され、「だれがわたしを救ってくれるのでしょうか」との「痛切な叫び」に行きつかざるを得ないのである。この「わたし」をめぐる解釈史的説明も参考になる(九四―九五頁)が、「パウロは『わたし』を語ることによって『人間のありのままの姿』すべての人間の現実を明らかにしているのだと考えられます」と著者は締めくくり、パウロの終わりの言葉、「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします」によって、「福音の光に照らされた人間実存の姿が明らかにされている」と結論する。更に「考えてみれば、このローマ七章一五節は厳しい言葉でありつつ、その歴史の中で実は多くの人々に安らぎを与え、多くの人々の心を打ち、共鳴を与え、そして慰めを与えてきたのではないのでしょうか」(九六頁)と結んでいる。「共に苦しみ共に喜ぶ」において著者は芥川の『蜘蛛の糸』

を例に挙げ、人間のエゴイズムの深さを示しつつ、コリント教会における共同体の問題に入り、マザー・テレサの葬儀におけるイスラム教、仏教、ヒンズー教、キリスト教などの諸宗教によるそれぞれの祈りが捧げられたことに触れ、イサクとエサウの和解の物語を引用しつつ「それは単純に喜びに満ちていたというのではなく、主と共にあって導かれた出来事だと聖書は記すのです」(一一六頁)と語る。

「共に生きるということ」で著者は「戦後七〇年」を憶えつつ、安全保障関連法案の「強行採決」を悲しみつつ「わたしたちは愛と平和の世界を求めて歩まなければならない」(一七八頁)との決意を表明している。

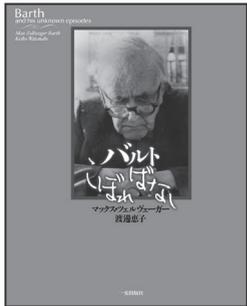
まことに本書は「垂直から水平へ」とキリスト教会を促す使信の書と言えるであろう。

(せきた・ひろお) 日本基督教団神奈川教区巡回教師  
(四六判・二四二頁・本体一九〇〇円+税・教文館)



## バルトこぼればなし

マックス・ツェルヴェーガー  
渡邊恵子



生身の人間としての自分を  
知ってほしい (バルト)

長女の夫が身内の立場から  
バルトを語り(「義父カール・バルトの思い出」)、  
長男一家と親交深い訳者が、  
親族・孫たちや、  
バルト・アーカイヴズ元館長に  
インタビューして詳らかにした  
バルトの素顔(「カールおじいちゃんの思い出」)。

A5判変型・上製  
定価 [本体 2,000 + 税] 円  
ISBN 978-4-86325-096-3



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

豊富な事例で軽妙に語られるキリスト教信仰の精髓  
 テイモシイ・ラドクリフ著、伊達民和監修  
 伊達民和・十苜屋聖マルコ教会翻訳の会訳

## なぜクリスチャンになるの その意義は何か



岩城 聡

本書は、同じ翻訳グループによる、同じ著者の『なぜ教会に行くの——パンとぶどう酒のドラマ』の後に出版された、いわばラドクリフの第二弾である。しかし実際には、『なぜクリスチャンになるの (What is the point of being a Christian?)』の方が数年前に出版されているので、順序は逆である。本書の続編が『なぜ教会に行くの』なのである。ラドクリフ自身の言葉によれば、本書の内容が終わったところから、『なぜ教会に行くの』が始まるという。『なぜ教会に行くの』が、ユーカーリスト(聖餐)を一つのドラマとしてキリスト教の奥義を展開しているのに対して、本書は世俗社会の中でクリスチャンであることの意義を説き明かしている点で、入門書としての面白さがある。しかも極めて豊富な文学、映画、その他の社会的・文化的事象を例に引きながら縦横無尽に筆を進めているので、退屈している暇がない。

第一章で著者は、キリスト教の核心は希望であることを明らかにし、サンティアゴ・デ・コンポステーラの聖人聖ヤコブを「希望の使徒」と呼ぶ。しかし現代社会は、暴力と麻

薬の蔓延、不平等の拡大、AIDSの拡大、環境破壊の脅威、宗教間衝突とテロの広がりによって、未来に対する信頼は失われている。その中でキリスト教は何を提供出来るのか、と著者は問うのである。さまざまな可能性が示されるが、決定的な答えは与えられず、読者は次章へと誘われる。

第二章のテーマは「自発性を身につけること」である。ここで著者は、人生の究極の目的が見えてくる二つの方法を提起する。一つは、神が存在することによって与えられる意味ある自由を持つことである。神ご自身の活力に預かることによって、わたしたちの旅の終わりが明白になる。福音は社会の期待に逆行し、奇妙とも思えるような自由と幸福にわたしたちを誘うというのである。自由の中心は自発性であると、ラドクリフは言う。自発性とは「存在の核心から生まれる行動である」。その窮極的模範が、イエス・キリストによる「自らの命を献げる自由」なのである。第二の方法は、幸福を通じる方法である(第三章)。われわれの幸福は自己充足ではなく、自らを広げて他人を愛することであり、自らを外に向け

ることである。キリスト教は神が幸福のためにわれわれを造られたという良い知らせであると著者は主張する。

第四章のテーマは「恐れることはない」である。クリスチャンは自由と幸福を少しでも垣間見せるように求められているが、そのような特質を発揮できないとすれば、その原因は「恐れ」にあるかも知れないと指摘し、「恐れることはない」という聖書のメッセージを明らかにする。さらに章を進めるにつれて、教会の本質である「真理の共同体」を浮き彫りにし、「わたしが存在するのは、わたしたちが存在するからである」として、人間自体の共同体性を明確にし、共同体としての教会は人間の結束のしるしにならないといけないと述べる。さらにラドクリフは、現代における教会の分裂状況(単に教派的分裂ではなく、「共同体」派と「神の国」派など、価値観の分裂)についても言及し、その彼方にある新しい可能性を示している。

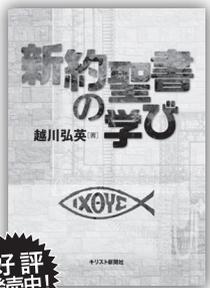
著者は本書の全編を通じて、キリスト教信仰の特異な価値を一つひとつ明らかにして行く。いわばそれは、現代の世俗社会における一つの「宣言」である。ただ著者はそれを大上段に振りかぶっては言わない。さまざまな実例や物語を通じて、知らず知らずのうちに、わたしたちの魂の中に新しい価値観を注ぎ込んでいくのである。それが本書の魅力であり、眼目であると評者は感じるのである。

ちなみに、ラドクリフは、ローマ・カトリック教会ドミニコ会の修道士(イングランド在住)であり、一九九二年から二〇〇一年まで世界のドミニコ会の最高指導者であった。

(四六判・四四〇頁・本体二七〇〇円+税・教文館)  
 (いわき・あきら日本聖公会司祭)

キリスト新聞社の本  
 Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

これでわかる!  
 新約聖書の基礎知識



好評  
 発売中!

## 新約聖書の 学び 越川弘英著

キリスト教理解への一助となる、聖書への道案内。本書は新約聖書を初めて手にする方々を対象とする入門書である。 ■A5判・308頁・2,000円

佐藤優氏推薦!



好評  
 発売中!

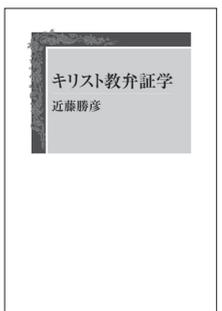
## アメリカ映画と キリスト教

120年の関係史 木谷佳楠著  
 あの名作映画に隠されていた、キリスト教の影響とは!?  
 ■A5判・212頁・1,600円

キリスト新聞社 since 1946  
 〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
 TEL. 03-5579-2432  
 FAX. 03-5579-2433 (価格は税別)  
 E-Mail. support@kirishin.com  
 URL. http://www.kirishin.com

異教社会である日本で伝道するための神学的基盤  
近藤勝彦著

## キリスト教弁証学



井ノ川勝

わが国における最初の本格的、体系的な「キリスト教弁証学」が刊行されました。近藤組織神学の三部作である『キリスト教倫理学』に続く、待望の『キリスト教弁証学』です。異教社会である日本で「キリスト教的真理」を伝道する教会、キリスト教学校等にあつて、「キリスト教弁証学」の構築は不可欠な神学的作業です。教会は一方で「キリスト教信仰とは何か」と問いつつ「キリスト教的真理」を鮮明にする闘いを行うと共に、他方で「なぜキリスト教信仰か」「なぜ教会か」「なぜキリスト教文化か」を歴史的文脈の中で問いつつ鮮明にする闘いを続けなければなりません。そこに「キリスト教弁証学」の課題と使命があります。特に日本における教会の弁証学的課題は多角的で、前近代的とも言ふべき「特殊日本の精神」の問題、近・現代の世界において直面している世俗化問題や他宗教問題等の折衝、対決が新しい日本とその国民性や市民精神の形成にとって不可欠です。

そこで問われるのが、どのような神学的方法により「キリスト教弁証学」を構築するからです。イエス・キリストの出来事に

利と正当性を支持する関係にあります。また弁証学は倫理学と組織神学的循環関係にあります。本著は五部で構成されます。

第一部は「人間の文脈」、人間の本質的構成としての宗教性の問題、無神論とキリスト教の問題の検討がなされます。

第二部は「歴史の文脈」、歴史の意味と目標についての考察、歴史観や歴史哲学のアポリアが認識され、歴史の神学の真理性が主張されます。

第三部は「近代世界の成立に対するプロテスタントイイズムの意義の領域」、現代文明の理解とそこに生じている種々の問題と取り組む上で、近代世界の成立史を認識することは不可欠な前提に属し、そこでのプロテスタントイイズムの意義を鮮明にします。

第四部は「新しい日本の形成の文脈」、近代日本とキリスト教の関係の問うことは、新しい日本の形成のために、日本にお

ける歴史的啓示の事実と、そこに示された神の出来事を聖書の証言に従い、霊的仕方で認識し得ることが、神学の出発です。キリスト教弁証学は、この「基礎神学」に根ざし、人間存在にとって本質的な「神的なものとの関係」「人間と世界にとっての神的なものの必要性」を人間学的地平をも視野に入れ、「歴史の神学」「歴史神学」より考察します。この点に近藤組織神学の特徴があります。その射程は人間学、歴史認識、近代世界認識に及び、現代世界文明の諸価値の問題と対面し、倫理学に接触し、文化や社会の政策にまで隣接します。カール・バルトはブルンナーとの論争において、「教義学プロレゴメナ」「基礎神学」としての弁証学を否定しただけでなく、方法的に構想された弁証学の可能性をも否定しました。更に、倫理学を教義学の中に解消しました。歴史の片隅に追いやられた弁証学を、組織神学的に位置づけることが、今日の歴史的现实からの様々な問いかけに対して、責任ある応答を果たすこととなります。教義学と弁証学とは相互関係にあり、教義学的認識が弁証学を神学として内的に支持し、弁証学は外的文脈の中で教義学の権

けるプロテスタント教会の責任や可能性について語る上で不可欠な考察です。

第五部は「現代世界文明の文脈」、今日の文明諸問題の文脈において、キリスト教信仰の真理性の正当性と権利とを明らかにし、現代文明の活路、キリスト教信仰の可能性を提示します。

近藤先生が私どもの神学生時代に繰り返し問われたことがあります。「なぜ、今日、日本で伝道者なのか」。今、改めて確信します。私も伝道者は日本において「弁証学的存在」として教会に召されたのだと。本著の問いかけを真剣に踏まえて伝道者として、キリスト者として新たな召命に生きることが、日本の教会、キリスト教学校等に求められています。

近藤組織神学三部作の最後の神学書、『キリスト教弁証学』の「内的基礎神学」である『キリスト教教義学』の完成を待望します。  
(いのかわ・まさる) 日本基督教団金沢教会牧師  
(A5判・六六四頁・本体五八〇〇円＋税・教文館)

**キリスト新聞社の本**  
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

**キリスト教カウンセリング  
講座ブックレット15**

人生の後半戦とメンタルヘルス

藤掛明

好評発売中!

# 「人生の後半戦」としての中年期に、ストレスとどうつきあうか

## 人生の後半戦とメンタルヘルス

藤掛明 ● 著 「聖学院大学准教授 臨床心理士、牧会塾非常勤講師」

人生の新しい段階でストレスは増加します。中年期への移行の際の危機こそ、人生最大の危機だといえます。聖書にふれながら、その危機を乗り越えるためのメンタルヘルスと生活管理を考えるための一冊です。

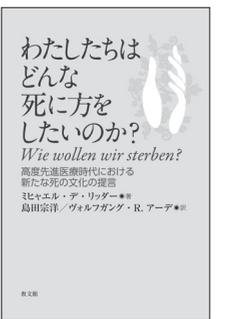
■ A5判 106頁 1500円

キリスト新聞社 since 1946  
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1  
TEL. 03-579-2432  
FAX. 03-579-2433 (価格に税別)  
E-Mail. support@kirishin.com  
URL. http://www.kirishin.com

誰もが避けられない死に新しい光を当てた名著  
 ミヒャエル・デ・リッター著  
 島田宗洋／ヴォルフガング・R・アーデー訳

わたしたちはどんな死に方をしたいのか？

高度先進医療時代における新たな死の文化の提言



窪寺俊之

医療の進化に伴い、病に苦しんでいた人々に光がもたらされたことは、大変嬉しいことです。その一方でガン患者や慢性疾患患者が増えて、完治できない病を持ちつつ日常生活を余儀なくされている人が増えています。未だに治療延命医療だけが医療だと誤解している人もいます。

医療は長い間、治癒を最大の目的にして発展してきました。多くの研究者や現場の医療者の弛まない努力の結果、今日の医療制度が出来上がりました。そして、今、終末期ガン患者や慢性疾患の高齢者が多くなり治療中心の医療の不備が見え、改めて医療とは何かを考え始めています。

本書の著者はドイツで救急医療と緩和医療をよく知るミヒャエル・デ・リッター医師ですが、沢山のケースを紹介しながら問題点を説明しています。読みながらこんな残酷なことが行われていることに驚きます。著者は法律にも造詣が深く現代の医療が抱える訴訟、裁判などを法律の面から詳しく解説しています。日本の最初の心臓移植事件（六三頁）にも触れていて、これほど幅広く具体的に医療問題を法的に議論し

た本に私は出会ったことがあります。

著者は治療延命中心の医療では、終末期患者には不適切だといえます。高齢者に医療者が温かく関ればもつと救われた高齢者があり、結果的に医療財政の改善も期待できると述べています（九五頁）。リッター医師は医療の目標は「患者さんの幸せ」であり、「治療の効果が人間としての患者さん全体の回復」になるものでなければなりません（三五頁）と述べて、患者と家族が幸福になる新しい死の文化の必要を提案しています。

本書で扱っている主なテーマをあげてみますと、終末期医療の任務、心臓死と脳死、衰弱死と病弱死、病院の冷淡さ、永続性植物状態、終末期の自己決定、緩和医療の価値などです。それぞれのテーマの中にある非人間化された医療とそこから生じる問題を、医療と法律の視点から丁寧に深く議論しています。私はその議論の深さに目を奪われながら吸い込まれて読みました。

本書は、リッター医師の提言（全三三八頁）の他に訳者島

田宗洋氏の「訳者解説」（全九八頁）が付いていますが、リッター医師の中心メッセージを日本の状況と重ね合わせて解説したもので日本の医療が抱える問題の本質を理解するのに助けになります。また、島田氏は終末期医療の現場は、患者の基本的人権は守られず、医療者も業務に忙殺されながら、混乱状態にあるとあって、早急に法整備が必要で、その一つが「リビング・ウィル法」の整備だと述べています（四〇七頁）。島田氏が訴えていることは、患者と家族にとってよい医療が実現すること、医療者も安心して患者のための医療ができる医療システムの構築だと伝わってきます。

読者は、厳しい医療現場にも良心的医療者がいることに慰めを感じ、意味ある生の実現に光を見つけることができるでしょう。

また、キリスト者にもどのような医療選択をするのかを問うているでしょう。いのちとは何か、死とは何かを考え、今

日という高度医療の発展した時代に神様から預かった「このいのち」をどのように生き、完成するのかを考えるきっかけになるでしょう。神様との垂直関係と社会との水平関係の交差する中に生きるキリスト者がどのような医療を選択し、どのような生を全うするかを考える助けになる書物です。

日本の医療に矛盾や疑問を感じつつ、より良い医療、看護、福祉を求めている方々に読んでいただきたい本です。分かりやすく力強い日本語に翻訳してくださった島田宗洋氏とヴォルフガング・R・アーデー氏の労に心から感謝したいと思えます。

（くばてら・としゆきII聖学院大学大学院客員教授）  
 （四六判・四六四頁・本体二八〇〇円＋税・教文館）

良く生きる手がかり  
 廣瀬 薫著 『羽仁もと子著作集』「信仰篇」3  
 (東京キリスト教書館理事代表)

湊 晶子先生ご推薦 (聖学院大学) 私たちが『羽仁もと子著作集』を日々味わい、「良く生きる手がかり」となる「日々」の養い」を心得て、活力に満たされて実践的に生きることを目指しています。本篇は、イエス・キリストの生涯を描いて「十字架と復活」まで記します。羽仁もと子の生き方の土台になるキリスト理解に色々な点で目が開かれます。

●A5判・二二八頁・一、〇〇〇円＋税

「良く生きる手がかり」シリーズ全12巻  
 発行予定一覧 (発行順不同) 既刊: 1000円＋税

シリーズ 1: 著作集第 21 巻  
 「真理のかがやき」より聖書とところどころ①: 既刊  
 シリーズ 2: 著作集第 21 巻  
 「真理のかがやき」より聖書とところどころ②: 既刊  
 シリーズ 3: 著作集第 19 巻  
 「友への手紙」より  
 シリーズ 4: 著作集第 16 巻  
 「みどりこの心」より  
 シリーズ 5: 著作集第 20 巻  
 「自由・協力・愛」より  
 シリーズ 6: 著作集第 4 巻  
 「思想しつづ生活しつづ (下)」より  
 シリーズ 7: 著作集第 3 巻  
 「思想しつづ生活しつづ (中)」より  
 シリーズ 8: 著作集第 15 巻  
 「信仰篇」 1: 既刊  
 シリーズ 9: 著作集第 15 巻  
 「信仰篇」 2: 既刊  
 シリーズ 10: 著作集第 15 巻  
 「信仰篇」 3: 既刊  
 シリーズ 11: 著作集第 15 巻  
 「信仰篇」 4  
 シリーズ 12: 著作集第 15 巻  
 「信仰篇」 5

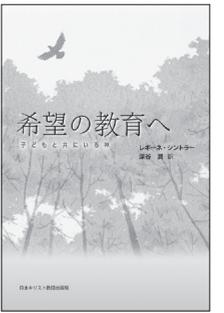
株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
 info@yobel.co.jp  
 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1  
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
 \*自費出版の専門出版社\*資料・呈

子どもと共に神を求める途上にあるすべての人へ

レギーネ・シントラー著

深谷潤訳

## 希望の教育へ 子どもと共にいる神



大澤秀夫

この本を読んで私は、幼稚園で聖書のお話をする時に、何度もレギーネ・シントラー（一九三二—二〇二二）の『聖書物語』（福音館書店、下田尾治郎訳）のお世話になったことを思い出した。その聖書の語り口にはいつも驚きつつ、得心させられたものだった。今回、その秘密が分かった気がする。

この本は児童文学作家であり、編集者でもある彼女が四二歳の時にまず『希望への教育』（一九七七年）という題で出版したものが元になっている。そこには彼女自身の子育ての経験と、読者との対話によって得た確信が込められている。それは「神との結びつき」によってこそ、子どもたちは「希望に満ちた生活」へと変えられて行くという確信である。

その後、二度（一九八一年、一九八六年）にわたって改訂され、日本では『希望への教育——子どもとキリスト教』（一九九二年）、『子どもと祝うキリスト教の祭り——希望への教育2』（一九九五年）として日本キリスト教団出版局から出版された。今回の『希望への教育——子どもと共にいる神』は第三回目の改訂版（一九九九年）からの翻訳である。

著者が長い年月をかけて子どもたちの心に聖書のことばを届けるための著作を重ねてきたことに、敬意と感謝をささげたい。三度にわたる改訂作業の背後には、著者と編集者、読者との協働があったはずだ。この積み重ねの中から先に述べた『聖書物語』は生まれ、子どもの祈りの本や絵本シリーズが作られた。

原著は、第一部「希望への教育」、第二部「子どもと共にいる神」、第三部「教会と祭り」、第四部「メルヘン、慣習と子どもの本」の四部構成となっているが、本書は前半部分である第一部と第二部である。

冒頭に描き出される情景が、何よりも著者の課題に取り組む姿勢を表している。子どもたちが著者に手を振って呼びかける。「おいでよ！ 見てごらん」。子どもたちの場所から出発することが著者の方法の第一原則である。

著者の第二原則は、大きく変化し、危険に満ちた現代世界に生きる子どもたちにとっては、「一つの」宗教に根を下ろすことが必要だということだ。「子どもたちは、安心感と信仰の基礎として、そして『寛容』のために必要な基礎として、さらに

他宗教に対する基本的な関心を広げるためにも、『一つの』宗教に根を下すことが必要です」（二四頁）。子どもたちには安心できる「家」が必要であり、それは同時に「故郷」にもなる。

第二章で著者は、子どもの姿をイメージすることから「希望」について語る。子どもの最初の笑顔、最初の言葉、そして最初の一步、思いがけない子どもの問いかけ。一つひとつが奇跡であり、希望に満ち、その背後にある大いなる力への憧れを呼び起こす。だから、希望とは「耳を澄まし、目の前にあるものを注意深く見ること」、「他の世界に注意を払うこと」、そして特に「告知、約束と共に私たちのもとにやってくる」ことだ。

著者は、希望を更に豊かにイメージできるようにと、聖書の物語、子どもたちの日常の振る舞い、そしてシンボルを取り上げ、文学を参照し、「希望、それは神が告げた約束に耳を傾け、喜びをもって待つことです」（五一頁）と、この章を結ぶ。

第三章では聖書から「ヤコブのはしご」の物語を取り上げ

て、「希望に向かって教育すること（まさに、これは本書のタイトル）、それは天と地の間にはしごをかけること」だと述べる。著者は「神について語られることもなく、福音を聞くこともないので、子どもたちは神の観念を考え出せない」（五六頁）と主張する。だから子どもたちに語ること、道をつくること、子どもたちと共に歩くことが必要だ。こうして、子どもに関わって行くための様々な試みと工夫へと展開していく。

第二部では十章にわたって、創造、苦しみ、死、善と悪、イエス、天使について展開されるが、ここでその豊かな示唆をすべて書くことはできない。子どもと共に神を求める途上にあるすべての人々、とりわけ両親、祖父母、教師、子どもの教会に関わる方々に、じっくりと、思いめぐらしつつ、繰り返し、読んでいただきたい良書である。

（おおさわ・ひでお）日本基督教団茅ヶ崎平和教会牧師  
（四六判・二七二頁・本体三三〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

新しい  
和英対照聖書が  
できました。

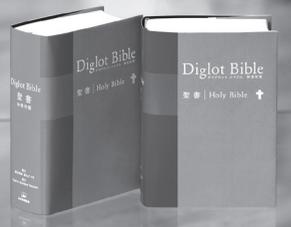
日本語訳と英語訳の  
理想的組み合わせ

総ルビ 和英対照聖書

ダイグロット  
バイブル

Diglot Bible

ダイグロット…  
「2ヶ国語版」の意



English  
Standard  
Version

聖書  
新共同訳  
総ルビ

1 欽定訳の伝統を引き継ぐ、  
原典に忠実かつ格調が高い  
全世界で急速に愛読者が増えている、  
必読の英語訳「ESV」

2 カトリックとプロテスタント諸教会、  
全国のミッションスクールで、  
圧倒的シェアを誇る「聖書 新共同訳」

●B6判 ●旧新約・3,120頁  
●本文：約8ポイント ●総ルビ  
●巻末カラー地図（日本語英語各7葉）つき  
定価（本体6,300円＋税）

NIESV54DI ピンク  
ISBN978-4-8202-1334-5

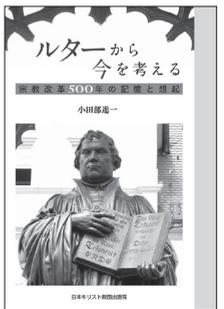
NIESV54DI ブルー  
ISBN978-4-8202-1335-2

お求めはお近くの書店または

JBS 日本聖書協会  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル  
TEL03-3567-1987 http://www.bible.or.jp/

独創的な三部構成で読者の関心を喚起する  
小田部進一著

## ルターから今を考える 宗教改革500年の記憶と想起



神田健次

二〇一七年一〇月三十一日、M・ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に「九五か条の提題」を提起した宗教改革から五〇〇周年を記念する時を迎えようとしている。国内外のキリスト教界が多彩なプログラムを企画しつつある中、まさに時宜にかなった著書が刊行された。著者は、ミュンヘン大学神学部で、宗教改革期におけるカールシュタットについての学位論文を提出された優れた研究者であり、本書では、ルターと宗教改革をめぐる重要な事柄を、最新の研究と対話しつつ、しかも判りやすく、読者を魅了する仕方でも描写している。

本書は、第1章ルターメモリアのはじまり【イスラレーベン】、第2章修道士であり、修道士でないルター【エアフルト】、第3章神のことばとの出会い【ヴィッテンベルク】、第4章キリスト教的な人間の自由【ヴォルムス】、第5章聖書を自分の言葉で読む【ヴァルトブルク】、第6章新しい共同体の形成【ヴィッテンベルク】、第7章マルティン・ルターとケーテの家庭【ヴィッテンベルク】と、全体で7章構成になっている。その特徴は、各章が大きく三つに構成されていることであり、第一

に、ルターの生涯と思想及びドイツ宗教改革の歴史、第二に、現代への問いかけ、そして第三に、記念の場所を紹介する歴史探訪、という独創的な構成となっている。

読者の関心を喚起してやまない内容が豊かに盛り込まれているが、例えば第2章では、宗教改革以降も、しばらくは修道士であったルターの姿に焦点が当てられている。外的には同様の生活スタイルでありつつも、内的にはキリストへの信仰によって与えられた福音の自由に基づく修道士ルターの姿が描写されている。その関連で、現代におけるドイツのプロテスタントの修道共同体に言及され、単純素朴な祈りや労働を焦点とする、日常的靈性涵養の関心の高まりとその重要性が語られている。

第5章では、一五二一年の一〇か月間、ルターがヴァルトブルク城において聖書翻訳に集中して取り組んだ、いわゆるルター聖書成立の経緯が描かれている。ドイツ語訳の聖書はすでに存在したが、ルター訳聖書はその統一性という点で卓越している。特に聖書を翻訳する作業場が、家の中の母親、通りの子どもたち、市場の民衆が生きて働く日常生活の只中にもあった

という指摘は、民衆に開かれた聖書翻訳という点で意義深い。

さらに第6章では、宗教改革の社会的影響との関連で、ヴィッテンベルクにおいて何度が民衆による聖像破壊が繰り返されたが、ルターが、神への信仰と隣人への愛の視点から、聖画像の撤去は自由に属する問題であると、強制的に撤去することに批判的であった点が叙述される。また、一五二〇年頃、ルターの協力で「ヴィッテンベルク共同財産規定」が制定され、都市の貧しい人々を救済するための共同財産として金庫が教区教会に設置された。そこには公的な社会福祉の一つの試みを見ることのできるという見解も興味深い。

本書では、しかしながら、ルターを積極的に評価するだけでなく、その歴史的問題点にも論及されている。例えば、「コラム ルターとユダヤ人」では、ルターのユダヤ人問題に言及している。初期では、ユダヤ人に好意的であったルターは、後期では、世俗当局に対して暴力を使ってもユダヤ人を排斥すべ

きことを勧め、その後の歴史に大きな禍根を残している。このようなルターの発言が、ナチスの反ユダヤ主義のプロパガンダに利用されるような側面もあり、この点では、ルターの立場に対して批判的な対峙が促されている。

そして、「コラム 平和共存への長い旅」では、一九九九年の宗教改革記念日に、アウクスブルクで、ルーテル世界連盟とローマ・カトリック教会の代表者が、「義認の共同宣言」に署名し、互いに向けて行った断罪が、もはや適用されないと宣言したことに言及される。この歴史的宣言をベースに、宗教改革五〇〇周年が共同で祝われることのエキシメニカルな意義が強調されているのである。

宗教改革五〇〇周年記念を控え、一人でも多くの方に読んでもらいたい好著である。

(かんだ・けんじ 関西学院大学教授)  
A5判・二五八頁・本体二五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局

新約聖書に登場する人物を  
楽しいカラーイラストで簡潔に紹介  
聖書がもっとおもしろくなる本

## 聖書人物 おもしろ図鑑

新約編

監修 中野実 金斗 イラスト  
古賀博 眞壁 巖 吉岡康子 編



人物を知ると聖書がもっとおもしろくなる! 地図や関係図を見ながら人物を読み解く、大人も子どもも楽しめる新約聖書入門。  
四六判 並製・112頁・1,620円

恋や性などに向き合う  
ティーンエイジャーに贈る  
手紙とことば

## 10代のキミへ いのち・愛・性のこと

監修 高橋貞二郎  
執筆 渡辺和子/沢 知恵/塩谷直也 (ほか)

10代と深く接してきた執筆陣が、若者の「いのち」「愛」「性」への葛藤や好奇心により、希望をこめたメッセージを贈る。  
A5判 並製・160頁・1,944円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigy@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
<http://bp-uccj.jp>

今年二月、大阪で列福される戦国大名の本格的評伝  
川村信三著

クリシタン大名  
高山右近とその時代



片岡瑠美子

高山右近についての本は多く出版されているが、川村信三氏は「日本史概説で抜け落ちるクリシタンと日本史一般の繋がり」を「高山右近という人物を通してみた『クリシタン史』として、これまで明らかとなつた『点』と『点』を結んで、ひとつの流れ(ストーリー)として示したかった」(二五二頁)と「あとがき」に記している。その方法として著者が「これまであまり試みられなかった」「高山右近の生きた『時空』をあらためて俯瞰するという方法」(五頁)で、稀有な人生を送つたこの人物像を明らかにすると述べているように、右近理解に新たな光を当てていて、とても興味深く読むことができる。

七章からなるこの本の最初の主題に現れる、「新時代の象徴としてのフランシスコ・ザビエル」を迎え入れた人々、山口の守護大名・大内家、堺の商人、畿内一円に勢力を伸ばす浄土真宗本願寺派(一向宗)の三者が三つ巴のかたちで融合して形成されたとする著者の仮説「瀬戸内海リンク論」は当時をよく説明できる論であると思う。ザビエルの意思を継いで都に上つたガスバル・ヴィレラが室町幕府より布教の許可を

得てその瀬戸内海リンクに加わつたのは一五六〇年であった。一五六三年には結城忠正、清原枝賢と高山飛騨守友照らが洗礼を受け、翌年右近もユストの洗礼名で受洗した。著者はこの親子の改宗が真のものであった証言としてルイス・フロイスの『日本史』を引用している。高槻領主の父ダリオとユスト右近は、貧民を葬るためにミゼリコルディアで作るような棺を製作させ、「蔑視されている賤しい聖の役を(自ら)引き受け」、それを担いだと(二四八頁)。コンフラリア・デ・ミゼリコルディアの規約「慈悲の所作」の一つに「死者を埋葬すること」とある。

著者は、右近が領内の神社をことごとく破壊したと記す江戸時代史料については、フロイスの証言や「忍頂寺領の諸年貢は、以前の如く寺におさめよ」(一九一頁)と記す『寿命院文書』に残る「高山右近書状」などから反論している。信長と右近の関係を知るエピソードも紹介されている。右近の主君荒木村重が一五七八年信長に謀反を企てたとき、信長は、自分に味方すれば右近領のクリシタンの信仰を自由に

するが、そうでなければ成敗すると脅迫した。村重に妹と息子たちを人質として出していた右近は、武士をやめてすべてを捨て、クリシタンとして生きる捨て身の覚悟を信長に示した。

一五八七年自らが出陣し九州入りした秀吉は、九州におけるクリシタン勢力の大きさに驚愕したに違いない。著者はその勢力を「クリシタンネットワーク」といい、「クリシタンは国境を越えてつながっており、秀吉にとつて領国を越えて交流する人びとを支配することは未知の課題でした」(一九五頁)と推測する。ところが九州クリシタンの支柱である大友宗麟と大村純忠がわずか二週間の間に相次いで世を去つた。伴天連追放令はこの機に出された。これを単にクリシタン宣教師の追放とクリシタン弾圧とだけ見るのではなく、秀吉の「天下統一の所信表明」の一つとしてみるべきことはすでに指摘されてきたが、著者は、右近の「明石転封」から「バテレン追放令」までを一連の流れとして捉えるよう勧めている。

領国支配においても常に信仰を基準としていた右近に迷いはなかった。その後の流浪の右近を支えたのは二度の「心霊修行」(「霊操」の体験と愛読書『こんてむつすむんち』(『キリストに倣いて』)であつたと著者は考えている。

一六一四年一月七日、六三歳の右近は徳川家康の命でマニラに追放され、翌年二月三日から四日にかけての真夜中に人生を全うした。『マルチリヨノ栞』には「流罪二行ハル、内ニ死シ、亦ハ籠者ノ難儀ヲ堪ヘカネテ死シタリ、其ノ外何レニテモ有レ、辛勞難儀ノ道ヨリ死シタルニ於イテハ、丸血留也」(「きりしたんの殉教と潜伏」教文館、二〇〇六年、一〇〇―一〇一頁)と教えている。

二〇一七年二月七日、ユスト高山右近は殉教者として列福される。右近が生きた「時空」の理解に欠かせない本書の一読を勧めたい。(かたおか・るみこ「長崎純心大学長」)

(四六判・二七二頁・本体一七〇〇円+税・教文館)

神学ダイジェスト121号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するクリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2016年12月発行  
A5判112頁  
定価630円(税込)

特集 『ラウダート・シ』  
巻頭言 『ラウダート・シ』と原子力発電  
私たちの姉妹である母なる大地のために  
貧しさとこの惑星の脆弱さ  
イデオロギー的批判を越えて  
エネルギーとの持続可能な関わり方についての提言  
―被造世界への義務(前編)―  
(第八回) 『正教神学概論』―キリスト論―  
主の昇天の神秘  
民数記における古いものと新しいもの

光延一郎  
T・カルヒヤル他  
D・フアレス  
L・シリヴェーラ  
ドイツ司教協議会  
V・ロススキー  
J・クラナドス  
J・L・スカ

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

# 本屋さんを選んだ お勧めの本

## 『1分間の黙想 祈りの力』

E・M・パウンス著  
森本二太郎 写真



1,800円+税  
日本聖書協会

横浜キリスト教書店

高橋友彦

世にいう『一日一章』あるいは「デイリー・デイボーション」という本は数多く出版され、中には長く愛読されている定番・名番のあることは皆様ご承知の通りです。そんなカテゴリーに入ると思われるこの『1分間の黙想 祈りの力』が日本聖書協会より刊行されました。

E・M・パウンスは、19世紀後半から20世紀初頭に活躍した米国のメソジスト監督教会の牧師・説教者で、『Power Through Prayer』(邦訳『祈りによる力』いのちのことば社)の著者としても知られています。三六六日分の聖書のみ言葉と、著者の平易な、しかし格調高いメッセージと祈りが編集・収録され、一日一ページずつ読み続けることができます。

世界各地で頻発したテロ。中東から欧州各地へ流入する

難民の問題。国民投票による英国のEU離脱。米国の次期大統領選でのトランプ氏の勝利。世界的な潮流が大きく変わったことを思わせる二〇一六年でしたが、新しい年を迎えるにあたって、私たちクリスチャンはキリストへの信仰と祈りと希望を持ち続けて進んで行きたいものです。

全ページカラー印刷、美しくかつ重厚な装丁のこのハンディな『1分間の黙想 祈りの力』は、さまざまな方々が携行し、長く愛読され、より聖書に親しみ深い祈りに導かれることを助けてくれる一冊です。求道者からベテランの信者まで幅広い方々にお勧めできますし、手頃な価格からプレゼントにも最適な本です。

### 横浜キリスト教書店

〒231-0063 横浜市中区花咲町3-6  
TEL: 045-241-3820  
FAX: 045-241-5881  
休業日: 日曜・祝日  
E-mail: [sksch@mva.biglobe.ne.jp](mailto:sksch@mva.biglobe.ne.jp)  
URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yokohama-cbs>

徳島キリスト教書店

原田洋子

## 『あなたらしく生きる』

山内英子著



1,200円+税  
日本キリスト教団出版局

人の人生とはレールに沿って進むことを望みますが、そうはいかないことが多々あります。

この本を書かれた方はお医者さんですので、がんのような病気の方も多く見られます。しかし、そんな中からも神様が与えてくださったそれぞれの賜物を生かしつつ、人とのかわりの中で自分らしさをもってあなたらしい生き方をしてほしいと書かれています。

読みやすい本ですので、ときどき目を通して道しるべとなればと思います。

# キリスト教書総目録 2017年版

## 宗教改革500年記念特集

巻頭エッセイ

森田安氏 深井智朗氏

### 内容

総記・年鑑 辞(事)典 図説年表 / 全集(著作集) 叢書 講座 / 聖書 / 聖書学 / 神学 / 宗教哲学 思想 倫理 / 伝記(ライオン) / 信仰・入門書 人生論 説教集 / 文学 小説 評論 / エッセイ 詩 劇 / 音楽 美術 建築 / 教育 保育 心理 社会福祉 / 児童 絵本 / 讃美歌 式文 / DVD CD カセット ビデオ / キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引 / 著者索引 / 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送料250円  
■ お近くの書店様でお求めください。

### キリスト教書総目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区  
東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

### 徳島キリスト教書店

〒770-0052 徳島市中島田町3-57-1  
TEL: 088-633-6335  
FAX: 088-633-6335  
E-mail: [tokushoten@shito.ocn.ne.jp](mailto:tokushoten@shito.ocn.ne.jp)  
URL: <http://www.toku-church-book.com>

## 『ロゴセラピーのエッセンス』

ヴィクトール・フランクル 著  
赤坂桃子 訳



自らの収容所体験を記した『夜と霧』によって知られるヴィクトール・フランクル。彼の創始した心理療法「ロゴセラピー」に興味があり、その概要を知りたいと願ってきた私にとって、本書はまさに待望の書でした。刊行予告のタイトルを見たときから、ぜひ読みたいと思っていました。

元は『夜と霧』の英訳版に、フランクル自身が付論として加えた、ロゴセラピーの概説です。ロゴセラピーの根本には、人を「意味への意志」を持つ存在と見る人間観があること。そして、この人間観に立脚して、今苦しんでいる人、すなわち自らの意味を見失っている人が、未来において新しく意味を発見していくのを手助けするのが、この療法であること。これらのことが、基本概念の解説という形で簡明に記されています。

さらに続いて、日本で実際にこの療法を用いている二人の専門家の文章があるのが、ありがたいです。家庭内での暴力に苦しむ親子や、終末期を迎えていらだちを募らせる方など、

具体的事例を基に、上記の人間観が治療の現場でどのように有効であるかが紹介されています。

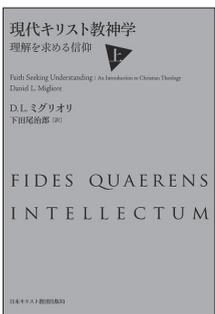
ロゴセラピーの人間理解は聖書のそれと響き合っています。それゆえ特に牧会者にとって、多くの示唆をいただくと本だと思います。私は本書を読みつつ、次の御言葉を思いました。「天が地を高く超えているように、わたしの道はあなたたちの道を、わたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている」(イザヤ55・9)。主なる神様は、第二イザヤの預言の最後にそのように語り、捕囚の民を「神の道」へと押し出しました。そこであなたたちは、自らの意味を新しく見出すのだ、と。

牧会者の役割とはこのことでしょうか。教会につながる方々、特に苦しみの中にある方を、「神の道」の中に位置付ける。その道の中で、今直面している不条理の苦難さえ「意味」が与えられていく。それをお助けする。その道を共に行く。この牧会の業を、本書は示しているのだと思いました。(土肥)

(一八五〇円＋税・新教出版社)

『現代キリスト教神学』  
——理解を求める信仰 上』

D・L・ミグリオリ 著  
下田尾治郎 訳



学校を退学してしばらく、何もしていなかった時期を過ごした。あまりに何もすることがないので、こんなことでもなければ絶対に読まないような本を読むことに決めた。その時にある牧師に勧められて読んだのがこの『理解を求める信仰』の原書である。

神学にアレルギーを感じている方は多い。難しい、抽象的なことばが複雑に絡み合うものというイメージが定着しているからだろう。しかし、信仰の対象である神がどのような方であるのか、神は私たちにどうすることを求めているのか、全く考えたことがないキリスト者もいないだろう。キリスト者は誰でもいくらかは神学者なのだ。

神を完全に理解できる人はいない。人間に全てが理解できるような方を、神とは呼べない。そうであるからには、私たちがどれほど真剣に神に向かいあつたとしても、大きな誤解をしないでかす可能性がある。神を信じていると口にしながらか、実際には全く別のものに操られて生きていることもあるかもしれない。

そうならないために、神学はとても役に立つ。無意識のうちに持っている、神や信仰に対する思い込みは、本書を読んでいくうちに爽快に打ち砕かれる。この経験は鍼灸院の施術にたとえられようか。最初は少し痛いのが、やがて心地よさが加わり、これまで冷え切っていたところに血が通っていくのを感じられるのである。かつての私はこの経験を経て、何とか一歩を踏み出す力を得た。

新旧さまざまな神学の伝統を整理し、紹介していく著者の手際は見事なもので、英語圏の神学校で広く教科書として用いられているのもうなずける。しかし、情報の提供ではなく「求め、そして、問い続ける」(22頁) 信仰の営みへ読者を招くことこそが、本書の目的だ。

そうは言ってもねえ……とお悩みの方には、第1章「神学の営み」だけでも読まれることを勧めたい。神学に対するイメージが変わるはずだ。(はくた)

(四二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
フィリップ・バーハム著 堀口君子訳	神にゆだねて —回復のためのクリスチャンの瞑想	A 5	424	2,500	キリスト新聞社	10/14
スハ・ラッサム著 浜島敏訳	イラクのキリスト教	四六	336	2,500	〃	10/21
上智大学キリスト 教文化研究所編	ルターにおける聖書と神学	四六	156	2,000	リ ト ン	10/17
三 上 章	プラトン『国家』に おけるムウシケー —古典期アテナイにおける ボリス社会とムウシケー の相互影響史を踏まえて	A 5	614	5,000	〃	10/17
錦 織 博 義	〔決定版〕ひとりの伝道者 に注がれた神のまなざし	新書	278	1,100	ヨ ベ ル	10/20
大 崎 節 郎	大崎節郎著作集7 — 説 教 集	菊判	546	7,600	一 麦 出 版 社	10/1
加 藤 常 昭	竹森満佐一の説教 —信仰をぶつける言葉	四六	298	2,900	教 文 館	11/14
竹 森 満 佐 一	わが主よ、わが神よ —イエス伝講解説教集	四六	466	3,500	〃	11/30
永 田 竹 司	見えない希望のもとで —永田竹司説教集	四六	316	3,100	〃	11/30
高橋貞二郎監修	10代のキミへ —いのち・愛・性のこと	A 5	160	1,800	日本キリスト 教団出版局	11/20
中野実監修	聖書人物おもしろ図鑑 — 新 約 編	四六	112	1,500	〃	11/25
寄稿者=R・ボウカム、 伊藤明生ほか	人生を聖書と共に —リチャード・ボウカムの世界	四六	120	1,600	新 教 出 版 社	11/11
ロドニー・スターク著 櫻井康人訳	十字軍とイスラーム世界 —神の名のもとに戦った人々	四六	392	3,200	〃	11/17
藤 掛 明	キリスト教カウンセリング 講座ブックレット15 —人生の後半戦とメンタルヘルス	A 5	140	1,500	キリスト新聞社	11/25
廣 瀬 薫	良く生きる手がかかり10 —羽仁もと子著作集「信仰篇」3	A 5	128	1,000	ヨ ベ ル	11/30

## 既刊案内 (2016年10月~11月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
ミヒヤエル・デ・リッター著 島田宗洋ほか訳	わたしたちはどんな死に方をしたいのか? —高度先進医療時代における 新たな死の文化の提言	四六	464	2,800	教 文 館	10/10
宮 本 善 樹	教会会計 —基礎から実務まで	A 5	342	2,500	〃	10/20
川 村 信 三	クリシタン大名 高山右近とその時代	四六	272	2,700	〃	10/20
船 本 弘 毅	聖書に聴く「生と死」	四六	242	1,900	〃	10/30
A. ベルレユング/ C. フレーフェル編、 山吉智久訳	旧約新約 聖書神学事典	A 5	680	18,000円 (2017年2月 28日まで 特価本体 17,000円)	〃	10/30
ヤン・ピエンコフスキー 絵 木原悦子 文	ク リ ス マ ス	245 x 216mm	24	1,500	日本キリスト 教団出版局	10/15
左 近 豊	信仰生活の手引き 祈り	四六	160	1,300	〃	10/15
レギーネ・シントラー著 深谷潤訳	希望の教育へ —子どもと共にいる神	四六	272	3,600	〃	10/25
多摩美術大学環境 デザイン学科編著	島の小さな教会	B 5	108	2,000	新 教 出 版 社	10/1
ヴィクトール・フランクル著 赤坂桃子訳	ロゴセラピーのエッセンス —18の基本概念	小 B 6	160	1,850	〃	10/11
北村慈郎牧師の処分撤回 を求め、ひらかれた 合同教会をつくる会編	合同教会の「法」を問う —北村慈郎牧師の戒規免職無 効確認等請求訴訟裁判記録	B 5	256	1,700	〃	10/24
丸 山 久 美 子	北 森 嘉 蔵 伝 —その生涯と思想	A 5	230	2,100	教 友 社	10/1
牧 田 吉 和	改革派教義学5 — 救 済 論	A 5		4,200	一 麦 出 版 社	10/1
善野碩之介/道子著	百 歳 の 総 決 算 —人生の黄昏時に想う	四六	236	1,700	ヨ ベ ル	10/1
福 地 多 恵 子	主の奇跡と守り —わたしの信仰の歩み	四六	84	700	〃	10/14
A. グリューン著 村椿嘉信訳	従順という心の病い —私たちはすでに従順になっている	四六	120	800	〃	10/30

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrifkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 教誹センター・Iマ7F	022-223-2736	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	fqcwks24@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中野区新中野2-1-1	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo@icom.home.ne.jp	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yokohamacs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市宮所通一番町313	025-229-0656	共用		info@s-seibun.co.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kiordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacacts.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびらり森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexlim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	沖縄県那覇字線777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。



## 日本福音ルーテル教会

### 宗教改革500年記念事業推奨図書

ルター研究所 三部作



**アウグスブルク  
信仰告白**



**『キリスト者の  
自由』を読む**



**エンキリディオン  
小教理問答**

## アウグスブルク『キリスト者の自由』を読む

メラントロン著 ●ルター研究所訳 ●B6判並製 ●定価：1000円＋税

ルター研究所編著 ●B6判並製 ●定価：1000円＋税

宗教改革期に、ルター派、改革派、急進派は次々に信仰告白文書を明らかにした。本書は信仰告白文書の最初のものであり、ルター派の信仰表明の根本的地位を占め、ルター派教会のアイデンティティを規定している。解説では、本書成立の背景と現代社会での意義について述べる。

ルターの名著『キリスト者の自由』は、ルターが受けとめた聖書の教えを骨太に論理的に組み立てて論述し、信仰者の生のあり方が整理され述べられている。また500年前の書物を我々が読むには、すべての現代人が共通に直面している課題という視点が必要であろう。

## エンキリディオン小教理問答

ルター著 ●ルター研究所訳 ●B6判並製 ●定価：900円＋税

ルターがキリスト者、またその家庭のために著した『エンキリディオン（必携）』の新たな全訳。本書の歴史的意義とそれが現代社会に持つ意義については、徳善義和ルーテル学院大学名誉教授（ルター研究所初代所長）による「まえがき」と巻末の「解説」により示されている。

## ルターにおける聖書と神学

LITHON [リトン] 〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402 FAX 03-3238-7638

●46判並製 ●定価：2000円＋税

二つの領域を生きる私たち（内藤新吾）  
／ルターの聖書解釈方法の特質（竹原創一）  
／ルター聖書と現代ドイツ教会（吉田新）  
／キリストの福音の伝承（川中仁）  
／ルターにおける「つまずきの石」と「神学的突破」（鈴木浩）

## 『ルター研究』別冊

ルター研究所編  
A5判並製 各号 2000円＋税  
【各号の特集テーマ】

第一号 『宗教改革五〇〇周年とわたしたち』について

第二号 『エンキリディオン 小教理問答』

第三号 『アウグスブルク信仰告白』

第四号 『キリスト者の自由』

# 福音と世界

2017年2月号

特集 義とは何か——宗教改革500年②

寄稿者—竹原創一、吉田 忍、池田 裕、  
吉合かおる、島しづ子、林 巖雄

インタビュ／寄稿 B・クラップバート／月本昭男

好評連載 アメリカの教会と神学の今（吉松純）

現代神学の冒険（晋名定道、みことば散歩（望

月麻生）、レヴィナスの時間論（内田樹）、新約

釈義 第二モテ書（辻学）、ことばの履歴書（佐

藤優）、聖書とわたし（奥田愛基）

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL：03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

## 編集室から

ネットショップで有名なアマゾンが二〇一五年十一月にリアル書店「Amazon Books」の一号店を米国シアトルに開店、二〇一七年には新たに四号店をシカゴに開店予定。さらには、コンビニ進出も模索しているとのこと、二〇一七年には出店との報道もあり、実店舗ビジネス参入に向けて新しい動きがでてくる。

「Amazon Books」では、オンラインで人気の星四・八以上の評価を得た書籍を集めたコーナーを設置し、書籍には星数評価やカスマーレビューを記載したカードも添えられ、ネットユーザーのトレンドに敏感なアマゾンならではの棚の展開を行っている。書籍の表紙にスマートフォンをかざすと、アマゾンのホームページにジャンプして、詳細な書誌情報にもアクセスできる。書籍はすべてオンラインと同じ価格で販売。既存の書店を経営難に追い込んできたアマゾンが実店舗を展開すること

には、批判的な見方があるが、報道によるとアマゾンは米国で書店四〇〇店を出店することを計画しているとのこと。多くの書店にとってはさらなる脅威となり得る。

アマゾンのコンビニ進出については、現在、シアトルにあるアマゾン本社内で社員向けの店舗として試験運用中。三〇坪（セブン・イレブン並み）の店舗面積で、「ポケモンGo」ならぬ「Amazon Go」と称され、何が驚きかということ、店舗にはレジがないということ。棚には、食料品といった商品が陳列され、顧客がそれを手に取ると、スイカのような電子マネーがチャージされたスマートフォン内の「仮想ショッピングバスケット」から代金が引かれるという仕組み。バーコードのついてない商品を自動識別できるセンサーやカメラ、AI（人工知能）を駆使している。商品を棚に戻すと、チャージが解かれるようになっていて。顧客は商品を選び、改札口のようなレーンを通り、買い物完了。レジに並ぶことがない。盗難防止のため、入店時にスマートフォンで表示されたバーコードで本人認証を行うことこの策もなされている。

セブンイレブンのような自動システムの開発に投資をしていて、完全自動化の店舗が日本でも増えていくだろうと専門家は予測している。（友川）

## 本のひろば 2017年3月号 予告

本・批評と紹介…上智大学キリスト教文化研究所「ルターにおける聖書と神学」、福地多恵子著『主の奇跡と守り』、『大崎節郎著作集7 説教集』、加藤常昭著『竹森満佐一の説教』、宮本善樹著『教会会計』ほか

# 旅する教会

## 再洗礼派と宗教改革

1月25日

永本哲也・早川朝子・猪刈由紀・山本大内 [編]

再洗礼派（アナバプテスト）は幼児洗礼を否定し信仰洗礼のみを主張するなど、ラディカルな立場のゆえに宗教改革主流派から徹底的に弾圧され、安住の地を求めて世界を旅する教会となった。彼らの遺産とは何か。宗教改革500年の年、もう一つの重要な改革運動の全容を明らかにした、若手研究者たちの共同執筆。◆四六判・本体2800円

# 希望の倫理

## 希望の地平において行動するために

ユルゲン・モルトマン 著／福嶋揚訳

大反響



制御不能な資本主義と格差の拡大、憎悪の昂進とテロの連鎖、科学技術によって進む生命操作と破壊される環境。山積する21世紀の課題に対する聖書的・終末論的倫理からの深い洞察。◆四六判・本体4000円

# ロゴセラピーのエッセンス

牧会者必読

## 18の基本概念

ヴィクトール・フランクル 著／赤坂桃子訳

フランクルが『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文。ロゴセラピーの18の基本概念をコンパクトに説き明かす。◆小B6判・本体1850円

# 十字軍とイスラーム世界

大反響

神の名のもとに戦った人々 ロドニー・スターク 著／櫻井康人訳

十字軍は侵略者だったのか？『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教社会学者が西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討。◆四六判・本体3200円

# 影の国に別れを告げて

C.S. ルイス一日一章 中村妙子訳

【重版出来!】

「ナルニア」の作者による透徹した信仰の思索。◆46判・本体4500円



# 島の小さな教会

島の会堂の斬新な建築コンセプト!

多摩美術大学環境デザイン学科 編著 ◆B5判・本体2000円

「この小さなアルバムの誕生を神に感謝します」(加藤常昭氏評)



日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457 e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp 《価格8%税込》

牧師も、教会員も！ 復活を信じ、伝える、すべての人の必読書



◆B5判・128頁・2,000円

説教黙想アレティア 特別増刊号

# 見よ、この方を！ 今、復活と十字架をいかに語るか

2017年2月13日刊行予定

キリスト教信仰の根幹であり、同時に躓きとなる「主イエスの復活と十字架」。旧新約聖書の多くの箇所の説教黙想に加えて、神学的な分析や、音楽・小説・美術などの表現を通して、この福音に迫る。復活の説教を書くための、懇切な手ほどきも収録。

## 目次

### はじめに

加藤常昭

### 第1部 今、いかに語るか

徳善義和／吉村和雄／芳賀 力

### 第2部 説教黙想

左近 豊／千代崎備道／石田 学  
井ノ川 勝／川崎公平／郷家一二三  
宮井岳彦／小泉 健／吉田 隆／飯田敏勝  
安井 聖／藤掛順一／鈴木 浩

### 第3部 生活の中で

及川 信／江副謙一／林あまり／保科 隆  
デビット・ゾパティ

### 第4部 今日の「表現」から

渡邊義彦／藤本朝巳／下田尾治郎  
山根道公／古賀 博／関谷直人  
真下弥生／松本敏之

### 第5部 黙想から説教へ

—復活の説教を執筆する—  
平野克己

# 旧約文書の 成立背景を問う

共存を求めるユダヤ共同体

る うん そく  
魯恩碩

捕囚期以後、ペルシア時代のユダヤ共同体(イエフド)の試練と苦闘の結晶・旧約聖書。その諸文書編纂の担い手となった人々や時代的・社会的背景を問う。 ◆A5判 上製・400頁・4,320円

2017年  
1月25日刊行予定



定価七八円(税抜七二円) (千62円)

一年分(三〇〇円)(送料共)

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇一七年二月二日発行(毎月一回一日発行)

発行所

〒163-8814 東京都新宿区新小川町九―一 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話〇三―三六〇―五六七〇 振替〇〇一七〇一五―一六七九

発行人

本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社  
日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三―三六〇―五六七〇